



「ちゃんと伝わる」言葉かけのルール

○話しかけるときは、子供の視線の中に入って言葉かけを

◆何かに集中していると、周りが見えなくなる【興味や関心が非常に狭いところに向かう】

親からしてみれば「どうして？」と思うような、ものの細部にとてもこだわるお子さんがいます。私たちは何かものを見ると、パッとその全体像を捉えることができますが、そのようなお子さんは、同時に広い視野でものを捉えることができません。

部分からものを見ていて、全体を見ることができないのです。そのため、視野が非常に狭いところに限られているので、何かに集中していると、周りに誰か人がいても全く関心を示しません。さらに、耳から入ってきた話し言葉の理解も難しいため、呼びかけても反応しないことが多いのです。



そのような時は、目の前に行き、関心をこちらに向けてから話しましょう

●子供の目の前に行って、関心のあるものを使って、視線を合わせてから、名前を呼んで言葉をかけるように心がけてみてください。

呼びかけても、子供がこちらに振り向きもしないで集中しているときは、できればそのまま没頭させておいてあげたいものです。しかし、どうしても何かを伝えなければいけないこともあります。

そのときは、まずは子供の目の前に行ってから、声を掛けてあげてください。その時に、大きな声で呼びかけ続けるようなことは避けてください。言葉の意味を理解しづらい子供にとっては、ただ怒鳴られているようにしか感じられず、混乱してしまいます。

○「また言ってしまった！」を予防する言葉かけ変換表

「言っではいけない」と分かりつつも、つい言ってしまうことありませんか？言ってしまったから後悔しない、親子関係を円滑にする言葉かけ変換表の一部をご紹介します。

言っではいけない言葉	→	親も子供も心地いい言葉	補足
・何度も言ったでしょ？ ・何度言ったら分かるの！ ・なんで分からないの！	→	〇〇するよ	「子供が理解できていないのかもしれない」と思い、伝え方を工夫し、繰り返し伝える。何度も伝えるのが当たり前だと思い、できたらたくさん褒める。
・早く！ ・早くして！	→	・〇時までには終わらせよう ・〇分間に終わらせよう ・〇時に出るよ ・(好きな授業名)楽しみだね	・グズグズ、モタモタしている時、行動を一つずつ指示したり、少し手伝ったりする。できたらたくさん褒める。 ・時計の時刻を示す。 ・子供が楽しいと思えることを話題に挙げて関心をひく。
片付けなさい！	→	〇〇は、××に入れてね	何をどう片付けるかを具体的に伝える。「色鉛筆はケースに入れてね」など。必要であれば一緒に片付ける。